

担当課	長寿支援課・障害福祉課
事業名	福祉手当給付事業

I 定量評価（評価の各観点について、一定の基準に基づいた数値による評価）

	評価の観点					選択肢	
	①趣旨・目的及び達成手段	②事業の効果	③事業の効率化	④課題解決への取り組み	⑤今後の事業の方向性		
A委員	2	2	3	3	4	4	適正 適正な事業運営がなされている
B委員	3	4	4	2	3	3	概ね 適正 工夫や改善の余地があるが、概ね適正な事業運営がなされている
C委員	3	3	3	2	3	2	改善の 必要あり 概ねこのままの事業運営で差し支えないが、工夫や改善が必要である
D委員	2	3	3	2	2		
E委員	3	3	3	2	3		
F委員	3	4	3	3	4		
G委員	2	3	2	1	1	1	抜本的 見直し 抜本的に事業の運営を見直したほうがよい
委員会全体							

II 定性評価（評価の各観点について、意見やアドバイス等のコメントによる評価）

No.	評価の観点	評価コメント
1	①趣旨・目的及び達成手段	他自治体との比較、財政的状況等を考えると、重複受給は是正されるべきである。
2	①趣旨・目的及び達成手段	年齢制限は必要。
3	①趣旨・目的及び達成手段	福祉ということから必要であると考えます。
4	①趣旨・目的及び達成手段	予算の限り、多くの方が支援を受け取れることが望ましい。
5	①趣旨・目的及び達成手段	受給者の公平性の観点から、重複受給しないように支給した方がよい。
6	②事業の効果	効果は認められると思うが、介護制度の活用を考えると改善が必要。
7	②事業の効果	市として継続すべき事業であると思う。
8	②事業の効果	とても有効な支援である。

No.	評価の観点	評価コメント
9	③事業の効率化	自治体以外が主体となることは、あまり考えられない。
10	③事業の効率化	たまたまではあるが、今後、年齢制限を設けることで重複受給がしづらくなった点で、「概ね適正」と判断した。
11	③事業の効率化	64歳と65歳で支援を受けられない方が出てしまうのは残念である。
12	④課題解決への取り組み	課題の把握、改善方策の取組みは評価できる。
13	④課題解決への取り組み	(長寿支援課)現状のままで良いと思う。要介護3は含めなくてよいと思う。 (障害福祉課)年齢制限を設け、新規は65歳未満とすべきと思う。
14	④課題解決への取り組み	長寿支援課の手当の対象に、要介護3も入れるべきと考える。
15	⑤今後の事業の方向性	予算を増やしてでも必要性は大きい。
16	⑤今後の事業の方向性	重複受給ないように支給する。
17	⑥事業全体を通した総合的な評価	福祉という事柄は、市として継続すべき事業であると考え。その上で、長寿支援課での特別養護老人ホームの入所要件に合わせて、要介護3の方も手当の支給対象に入れるべきと考える。
18	⑥事業全体を通した総合的な評価	予算の限り、重複受給しても支援を受けられるよう継続してほしい
19	⑥事業全体を通した総合的な評価	介護保険の充実は多額の税金が投入されているためであり、収入が低い人は介護保険料が低く設定されているため、これ以上経済的支援をするには更なる増収が必要である。少子高齢化の現在、持続可能な政策ではない。

その他、事業そのものに関する意見

No.	評価の観点	評価コメント
1	①趣旨・目的及び達成手段	(長寿支援課) データの適正な把握をお願いしたい。
2	①趣旨・目的及び達成手段	(障害福祉課) 質問項目NO.3に対する説明において「政策判断」とあるが、その判断について聞いたものである。
3	④課題解決への取り組み	(長寿支援課) 数字は正確に出さなければならない。課題の把握ができていないのではないかと。
4	⑤今後の事業の方向性	(長寿支援課) 経済的に苦しい家庭はたくさんあるため、全体の増収予測の中で全事業のプライオリティをつけた上で、要介護3を含めるべきである。
5	⑥事業全体を通した総合的な評価	(長寿支援課) 資料作成の際は、○×を揃えてほしい。

担当課	スポーツ課
事業名	スポーツ協会事業

I 定量評価（評価の各観点について、一定の基準に基づいた数値による評価）

	評価の観点					選択肢	
	①趣旨・目的及び達成手段	②事業の効果	③事業の効率化	④課題解決への取り組み	⑤今後の事業の方向性		
A委員	2	2	2	2	2	4	適正 適正な事業運営がなされている
B委員	2	2	2	2	2	3	概ね適正 工夫や改善の余地があるが、概ね適正な事業運営がなされている
C委員	4	4	3	3	3	2	改善の必要あり 概ねこのままの事業運営で差し支えないが、工夫や改善が必要である
D委員	3	3	2	2	2	1	抜本的見直し 抜本的に事業の運営を見直したほうがよい
E委員	3	2	3	2	2		
F委員	2	2	2	2	2		
G委員	1	1	1	1	1		
委員会全体							

II 定性評価（評価の各観点について、意見やアドバイス等のコメントによる評価）

No.	評価の観点	評価コメント
1	①趣旨・目的及び達成手段	補助は良いとしても、効果の測定が足りない。税金を支出する重みを感じてほしい。
2	①趣旨・目的及び達成手段	趣旨・目的は古く感じるが仕方がないのかもしれない。スポーツ協会という達成手段もこれまでの経緯を考えるとこれも仕方がないのかもしれない。しかしながら、これらの検討及び目的と手段の整合性を吟味したようには感じられない。
3	①趣旨・目的及び達成手段	スポーツ協会事業としては必要であり、適正であると考えます。
4	①趣旨・目的及び達成手段	過去と現在では、時代が大きく変わっている中で、あまりにもそのままのものが多すぎる。（評価ができていない。）趣旨・目的が当てはまっていないのでは。
5	①趣旨・目的及び達成手段	事業の評価を市が行っていないことが問題。スポーツ協会が効率的・効果的に事業しているかの評価がされていないので、スポーツ協会が適当に運営を行っていたとしても改善されない。
6	②事業の効果	効果について全く検討がなされていないのではないかと。
7	②事業の効果	スポーツ協会事業が市の事業として有効なのか検討したほうがよい。
8	②事業の効果	スポーツ協会事業と指定管理事業で類似の事業を行っていることから、デマケーションが必要。

No.	評価の観点	評価コメント
9	③事業の効率化	担当課の事業に臨む姿勢が消極的に見える。人員が不足しているなど、何か原因があるのか。
10	③事業の効率化	スポーツ教室を実施するのはよいが、民間でやっているものはやらなくてもよいのではないか。例えば、水泳、テニス、空手、サッカーなどは民間のスポーツ教室があると思う。
11	③事業の効率化	スポーツ協会に事業を丸投げしているように感じる。
12	③事業の効率化	様々な競技団体の取り纏めとしては事業が必要かと思う。
13	④課題解決への取り組み	『スポーツに関する講演会・研修会事業』や『スポーツ功労賞等表彰事業』は本当に必要なかどうか、過去から慣例的に続いているだけなら見直しが必要なのではないか。
14	④課題解決への取り組み	予算を使う以上、きちんと事業評価をするべき。
15	④課題解決への取り組み	スポーツ協会ではなく、市として何をするのか考えてほしい。
16	④課題解決への取り組み	スポーツ庁で実施している『Sport in Lifeプロジェクト』に加盟し、他の団体や自治体の良い取り組みを取り入れたほうが良い。
17	⑤今後の事業の方向性	スポーツ協会事業が必要であれば担当課として事業評価をするべき。
18	⑤今後の事業の方向性	バラバラな感じがあり、ムダがありそうなので内容の見直しを考えてほしい。
19	⑤今後の事業の方向性	評価できる内容をもって、方向性を決めた方がよいのではないか。
20	⑤今後の事業の方向性	スポーツ振興の中長期計画を立てて、目指す姿に向かって戦略を練って、効率的・効果的にスポーツ振興に取り組んだ方がよい。川口マラソンは市外からの参加者もいるので、川口市のPRも含めて、他課・団体と協力して実施したら良いと思う。
21	⑥事業全体を通じた総合的な評価	補助金の効果測定について、市の統一的指針を作ってはどうか。「従来どおり」からの卒業を望む。
22	⑥事業全体を通じた総合的な評価	スポーツ協会の事業そのものとはもかくとして、それに対する市(担当課)の評価がなされておらず、補助事業の在り方として問題がある。
23	⑥事業全体を通じた総合的な評価	スポーツ協会が実施している事業としては一定の評価ができるが、市の事業としてはただのバラマキの感じがあり、取り組み方を考えたほうが良いと思う。
24	⑥事業全体を通じた総合的な評価	スポーツ協会事業の見直しをする時なのではないか。昔から変えずに同じ内容では難しいのではないか。現在の状況を把握してほしい。